

研究種目：若手研究 (S)

研究期間：2007～2011

課題番号：19672002

研究課題名 (和文) 養育者—子ども間相互行為における責任の文化的形成

研究課題名 (英文) Cultural formation of responsibility in caregiver-child interactions

研究代表者

高田 明 (Takada Akira)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：70378826

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：反射, 責任, 社会化, 模倣, 文化学習

### 1. 研究計画の概要

本研究では相互行為における応答の力が基礎となり、子どもと養育者の双方が責任を徐々に発達させると考えて責任が文化的に形成される仕組みを探求する。(1)乳児の規則性を用いた行動の相互調整, (2)初期音声コミュニケーションにおける音楽性, (3)乳幼児によるエージェンシーの表示と解釈, (4)相互行為としての模倣活動について検討を進めている。

### 2. 研究の進捗状況

H19年度から、日本国内において乳幼児がいる家庭を定期的に訪問し、養育者—乳幼児間の身体的相互行為、初期音声コミュニケーション、やりとり活動、模倣活動に関する動画資料を収集している。また米国及びアジア・アフリカ諸国でも上記に対応する動画資料の収集を行っている。これまでの分析から以下のパースペクティブが得られた。

近年の赤ちゃん研究は、母子間相互行為を社会システムが形成される過程だと見ている(Kaye,1982; Tomasello,1999)。ここでいう社会システムは、個々のメンバーが相手の行動を予測できることおよび共通の目的をもつことを要件としている。この要件を満たし、社会システムに参加できるようになって初めて、子どもはその社会で育まれてきた文化を学習し始める。

だが私たちの調査データによれば、乳児が他者の意図を理解するずっと以前から養育者は乳児をその文化に特徴的な活動の枠組みに巻き込もうとしている。乳児は近接する文脈に応答し、その参与形式は日々質的に変化していく。この見方をとれば、文化は(近

年の赤ちゃん研究が仮定するような)心の中に構築されるシステムではなく、子供と他者が協働して社会的な意味を実現する、行為の組織だといえる。そして乳児を含む相互行為の分析を進めることで、赤ちゃん研究の中心に文化にまつわる考察を位置づけるとともに、これまで行為と意味の問題を扱ってきた人類学、社会学、言語学などに近年の赤ちゃん研究の成果を接合することができる。

上のパースペクティブを得て、代表者と研究協力者との協働のもとで、(1)共同注意と社会的参照についての相互行為論的分析、(2)養育者の乳児音声に対する聴覚的な感受性の発達的変容、(3)双方向のやりとり活動を可能にする条件、(4)幼児における自己の発言の誤解に対する修復、(5)相互行為の発達過程における記憶の働き、といった研究が進んでいる。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究の目的の達成に向けて、「5. 代表的な研究成果」にあげたような、多くの研究成果があがってきている。具体的には、2010年5月時点で23本の論文、3冊の図書などをまとめている。また旅費等の助成を受けた招待講演はこの3年間に10件に上る。これは、本研究が国内外でその学術的価値を高く評価されていることを示している。

また代表者及び研究協力者は国際的な情報発信にも積極的で、上記の招待講演を除いてもこの3年間で22件の国際シンポジウムや国際学会で発表を行っている(このうち5つのセッションは、代表者がオーガナイザー

を務めたものである)。また国内では16件の発表がある(このうち5つのセッションは、代表者がオーガナイザーを務めたものである)。これらのシンポジウムや学会を主催する研究分野は、人類学、心理学、赤ちゃん学、言語学、社会学など多岐にわたる。これは、代表者が自ら組織を率いて積極的に研究成果を発信していること、並びに本研究の成果が幅広い分野で受け入れられていることを示している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

世界の様々な地域(日本を始めとするアジア、北中米、アフリカ)で養育者-子ども間相互行為についての動画資料、およびこれと比較するための大型霊長類の動画資料を収集する。各研究項目について今後の研究計画の基本方針を記す。

##### (1) 乳児の規則性を用いた行動の相互調整

子どもは優れた能力を備えて生まれるが、それへの社会の対応は様々である。養育行動がどう形成され、子どものどんな感覚運動的行動を引き出すのかを明らかにする。

##### (2) 初期コミュニケーションにおける音楽性

乳幼児に向けた呼称、子守歌、音楽的な遊びでは、しばしば洗練された形式が発達している。こうした形式やその基底にある規則の多様性を明らかにする。また乳児の発声がどのように組織化されるのかを分析する。

##### (3) エージェンシーの表示と解釈

やりとり活動の基礎となる共同注意及び社会的参照に関する分析を進め、養育者による促し、指さし、命令などが乳幼児の注意を獲得する諸条件を明らかにする。

##### (4) 相互行為としての模倣活動

行為連鎖という視点をとり入れることで、心理学的な模倣研究の視座を拡張し、実際に文化が創造・再創造される過程を論じる。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計23件)

- ① Takada, A. (2010) Changes in Developmental Trends of Caregiver-Child Interactions among the San: Evidence from the !Xun of Northern Namibia. *African Study Monographs, Supplementary Issue*, **40**, 155-177. 査読有。
- ② 高田 明 (2010) 相互行為を支えるプラグマティックな制約: セントラル・カラハリ・サンにおける模倣活動の連鎖組織. In 木村大治・中村美知夫・高梨克也(編), *インタラクシジョンの境界と接続: サル・人・会話研究から*. 昭和堂(pp.358-377). 査読無。

③ 高田 明 (2009) 赤ちゃんのエスノグラフィ: 乳児及び乳児ケアに関する民族誌的研究の新機軸. *心理学評論*, **52**(1), 140-151. 査読無。

④ Takada, A. (2009) Recapturing space: Production of inter-subjectivity among the Central Kalahari San. *Journeys: The International Journal of Travel and Travel Writing*, **9**(2), 114-137. 査読有。

⑤ Takada, A. (2008). Kinship and naming among the Ekoka !Xun. In S. Ermisch (Ed.), *Research in Khoisan studies, No.22, Khoisan languages and linguistics: Proceedings of the 2nd International Symposium, January 8-12, 2006, Riezlern/Kleinwalsertal*. Cologne, Germany: Rüdiger Köppe Verlag Köln (pp.303-322). 査読有。

[学会発表] (計48件)

[図書] (計3件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

(1) 本研究プロジェクト独自の日本語版並びに英語版のウェブサイトを作成して<<http://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/>>, 随時更新中である。

(2) また代表者が推進する京都大学乳幼児発達研究グループの「赤ちゃん研究員」制度<[http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/~sitakura/infant\\_scientist.html](http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/~sitakura/infant_scientist.html)>とリンクさせて、毎年調査に協力してくれる子どもとその保護者に向けて研究成果をわかりやすくまとめた報告書を発行している。

(3) 公開行事としては、2010年1月に京都大学アフリカ地域研究資料センターの「公開講座」の一環で「育む」と題した一般向けの公開講演を行い、約30名の参加者があった。また代表者が定期的に主催する責任の文化的形成セミナーは、一般の聴衆も参加が可能で広く案内を送っている。第1回(H20.2)~第7回(H21.12)の参加者数はそれぞれ約25名、27名、44名、17名、31名、54名、14名であった。